

復興支援フォーラムニュース No. 123

(URL <http://www5a.biglobe.ne.jp/~tkonno/FK-forum.html>)

<事務連絡先> 今野順夫 (tkonno67@gmail.com)

【第121回ふくしま復興支援フォーラム/2018年1月18日】

福島大学食農学類(仮称)の設置準備の状況について

— 福島の食と農への貢献をめざして —

荒井 聡 (福島大学 教授)

農学系教育研究組織設置準備室 副室長

1. 農学群食農学類 (仮称)の設置の必要性

東日本大震災及び原子力災害により福島県の農業は大きな被害を受け、農業を担う人材が流出している。福島大学に農学群食農学類(仮称)を設置することにより、福島県内で学び地域で活躍したい人材の流出を抑え、さらに農業の構造改革や農林水産物の高付加価値化、世界的な市場競争力強化に向けて活躍する若い担い手を育成することができる。また、世界に類のない大規模な原子力災害の被災地域となった福島県に、国内外の農学系研究者が集い農学系の拠点を形成することにより、国内のみならず世界的に認められる研究成果を挙げる事が期待されている(基本構想より)。

2. 教育目標と養成する人材像

【教育目標】

本学類は、農学を総合的・実践的に学び、21世紀の食料・農林業・地域社会が直面する諸課題の解決に貢献できる知識・技能と応用能力を備えた人材を養成する。

【養成する人材像】

- (1) 先端的な農業生産技術を応用し、付加価値をつけて高度なマーケティングに挑戦することにより「もうかる農業」を実現できる人材
- (2) 高度な食品加工技術や発酵・醸造技術を駆使して、地域の素材を生かした6次化により「新たな食産業」を生み出していける人材
- (3) 原発事故にともなう農地・森林・水資源の汚染の中で、測量・土木技術を活用して環境回復を進め、地域再生に貢献していける人材
- (4) 農業の現場を知り、環境マネジメントから地域計画まで幅広く修得し、総合力を発揮して自治体や農業団体を牽引できる人材
- (5) 高齢化・人口減少の中で、新たな着想と熱いコーディネート力で、農村再生・いきいきした地域づくりを担っていける人材

3 新学類の概要（予定） ※内容は予定のものであり変更する場合があります。

- [学類名称] 農学群 食農学類（仮称）
[開設予定] 平成31年4月（1年次）
[入学定員] 100名（収容定員400名）程度
[専門コース] 食品科学コース、農業生産学コース
生産環境学コース、農業経営学コース
[学位名称] 学士（農学）

4 新学類の求める学生像

本学類では、食品産業や農林業の第一線で活躍することや、行政や教育機関などで食品産業や農林業を支えることを目指す意欲を持ち、卒業までに次の四つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・農学の専門知識を関連産業や地域社会の実践的な取り組みにつなげる力
- ・異なる専門分野との学際的な交流によってチームプレイを推進できる力
- ・グローバルな科学的知見や国際比較の情報を地域の課題解決に活かす力
- ・温かい眼差しと冷静な分析力によって地域社会への貢献を持続できる力

5 施設（学類棟等）整備について

- 建設場所 福島大学金谷川キャンパス内うつくしまふくしま未来支援センター隣
完成時期 平成31年12月（予定）
別途 農機具置場、及び学内施設利用

6 食農学類(仮称)の教育の特徴

「農学専門教育」と「農学実践型教育」の二つの柱からなる「新たな農学教育」により、実践的農学を身につけ、国際化時代の食と農の課題に対して主体的・創造的に取り組んでいく地域リーダーを育成します。

主要専門科目

食品科学	農業生産学	生産環境学	農業経営学
食品機能学Ⅰ	作物育種学	森林科学	農業経営学
食品機能学Ⅱ	稲作学	森林育成学	農産物流通論
食品分析学	環境保全型農業論	森林保護学	食品マーケティング論
食品素材科学	蔬菜・花き園芸学	森林利用学	フードシステム論
食品加工学Ⅰ	果樹園芸学	里山管理論	農業経済学
食品加工学Ⅱ	応用昆虫学	農村計画学	協同組合論
食品保蔵学	植物病理学	水資源利用学	農業政策学
発酵・醸造学Ⅰ	土壌科学	農業リモートセンシング	農林資源経済論
発酵・醸造学Ⅱ	植物栄養学	スマート農業論	
食品安全学	飼料資源学	土壌物理学	

農学実践型教育プログラム実施予定自治体

福島市	(地産地消型消費地) ㊦くしま農都プロジェクト
伊達市	阿武隈地域の里山再生と地域復興
飯館村	なりわいといきがいの両立による農業振興と地域再生
郡山市	ワインを核とした地域農業の活性化
猪苗代町	いなわしろ農産物ブランドとツーリズム推進による集落活性化
西郷村	酪農と畑作による地域振興
南相馬市	土地利用型農業の再生プロジェクト

(タイトルは仮のもので、今後申合せ書等作成の過程で自治体と協議し決める)

7. 福島大学農学系支援基金寄附金について 目標額30億円

～食・農・産業の振興と次世代育成のために～

- ・建物及び施設設備の整備に関する事業
- ・環境整備及び運営に関する事業
- ・教育研究支援に関する事業
- ・社会連携推進に関する事業



<第120回ふくしま復興支援フォーラムでのご意見等>

12月21日、第120回ふくしま復興支援フォーラムを、福島市AOZで開催しました。

二階堂晃子さん(元教師、学校心理士)から、「震災一見えない被害一思いをことばに託して」と題して、震災から6年過ぎたが、ふるさとを失った思いを詩に託して話していただきました。

寒い日でしたが、福島市内、白河、会津若松等から、40名の方々の参加がありました。特に過半数は、女性だったことが今回の特徴です。活発なご意見が交わされましたが、文書で、またメールでも、以下のようなご意見・ご感想が寄せられました。ご紹介させていただきます。

なお、報告者の二階堂さんからも、事後に、コメントをいただきましたので、併せて報告します。



★ 情景が目には浮かび、言葉のひとつひとつが胸にささりました。浜通りと中通りの人間のあつれきは、事実を知らないことから生じている悲劇だと思います、人と人とのつながり、交流の大切さを感じました。(E.S)

★ こういった話もよかった。充分、話しをしたという気になった。(S.S)

★ 詩の朗読を聞いていて、自分が聞いたこと、映像で見てきたことがオーバーラップして胸につまりました。是非、多くの人に聞いて欲しいと思います。県外のみならず、県内の人も話を聞いてもらい、認識を新たにしてほしいです。(Y.I)

★ 二階堂先生へ、今後ともご活躍されことお祈り申し上げます。素晴らしいフォーラムでした。(H.Y)

★ 大変感動的なお話をお聞きしました。(K. T)

★ 浜出身ではなく、土地勘はありませんが、ふるさとへの想いが伝わってきました。一方で、伝えることの難しさもあり、今後も伝道師としての役割を担っていただきたいと思います。(J. M)

★ 一人ひとりの思いを言語表現することの意味の大きさを感じました。その一方で、言語表現化する力を誰もが自然と身につけているわけではないなかで、どうその力を身につけていくことができるかな。。。 (M. K)

★ 詩という言葉の力で、福島のことを伝えていくことの重要性を改めて思いました。東京で市民運動をしている友人が、先生の詩を読んで、非常に感銘。読書会の指定本にしたい、図書館にも紹介する反応をもらったのが何よりの証拠です。具体的な表現の詩で、とても気持ちが伝わってくるというお話でした。(N. S)

★ 今日ほど、言葉の持つ力を感じさせられたことはありませんでした。言葉は、時に暴力となり、被災者の心を傷つける刃となる一方、体験を裏付けられた真実の言葉は、多くの心ある人々の胸を打ち、被災者を励ます力と呼び起こします。そのためには、語り部として、もっともっと被災地、被災者の声を発信していくことが大事であることを痛感しました。二階堂さんの福島弁を交えた朗読に、時に涙を誘われながら聞きほれた一時でした。(H. K)

★ だんだん薄れて行く3. 11のこと、同窓会に行っても、話題にもならなくなって、兄弟、親戚に話しても、はぐらかされてしまう。こんな思いをするのは、私達（福島の人）だけでたくさんだ、そんな思いなのに、他県の人にはなかなかわかりません。そうでない人もいるのでしょうか……。自分自身にも忘れてしまいたい思いが、出て来ているかも知れない。今日は、それらを思い知らされたように思いました。息子は、福島に来てよかったねと言います。福島に来なかったら、こんな思いを、知らずに終わってしまったかと思うので。(S. O)

★ 二階堂先生が恩師だったので、久しぶりに参加しました。改めて、変わらぬ存在感を感じました。参加者に若い層が、もうちょっと増えると良いですね。「風の声」、「学校」がよかったです。(S. S)

★ 小野田さんの詩、子どもたちの叫び、是非読んでみたい。(S. O)

★ この詩は立派な記録ですね。涙なくしては聴けません。だまして原発建てて、手を抜き放題の運営をしてきた会社は、社員を一番先に避難させようとしたことを思い出しました。笑っていけば、放射能なんて大丈夫と言った医大の先生のことも思い出しました。専門家も大して人の役に立ちませんね。原発がまた、次々に再稼働を決めていて、皆忘れっぽいんですね。また、事故が起きるでしょうね。こりないもんだなあと思います。ベースロード電源だなんて……。(S. S)

★ 震災・原発事故により奪われた変ぼうした「ふるさとの姿」についての思いをお伺いし、さらにそこが「復興記念公園」の建設予定地となる話を聞き、心からふるさとを感じました。ご講演をいただき感謝いたしております。(K. F)

★ 言葉の力、朗読の力、のすばらしさを認識しました。つらい気持ちを伝えることの大切さ、話続けてください。(S. H)

★ 詩のすばらしさに加えて語りがうまく、ひきこまれました。また、二階堂さんの情熱、感服しました。忘れてはいけないなと思いました。ありがとうございました。曙会でもお話してほしいです。(H. O)

★ 素晴らしい詩、心からの叫び、魅力的な福島弁の語りに感動しました。被害者・被災者同士の違いにくさびを打つような分断策に対抗して、連帯の輪を強めなくてはならないと思います。それぞれの悲しみ、苦しみを共有していくことが必要だと思います。もっともっと浜通りに住んで

いた被災者の被害の実情・心情を理解し、共感するとともに、被災者を受け入れた中通りの住民の心と、また自らの苦しみ（自主避難等）、会津の方々の思いと風評被害に悩む日々、相互に理解しあい、共有して、福島全体の復興を実現していく必要を痛感します。ますますの、語り部としてのご活躍を祈っています。ありがとうございました。（T.K）

★ いつもとは趣の違う朗読会のような形でしたが、詩の力、言葉の力を感じる心に響くフォーラムでした。（Y.N）

★ 二階堂さんのお話は、同郷の者として内容がよくわかるだけに、本当に真に迫っていて、涙なしには聞けませんでした。あの場でも出ましたが、県内の事例をもっともっと県内外に発信する必要があると思いました。（K.W）

<二階堂さんからのコメント>

皆さんが、咳払いひとつしないで、本当に真剣に聴いてくださって、被災地を雇用を持つ者としてとても励まされましたし、限りない連帯の気持ちを持たせていただきました。

浜通りとそれぞれの地域が、賠償の違いによって、気持ちのずれが生じている事実がありますが、この前の福島地裁での判決では、このようなどころにも目を向けていただきましたので、少し気持ちが落ち着いています。

残念なことに、直接の被害を受けている私の実家のところでは、この裁判について認識を持っていませんでした。原告の一人として、十分情報を送ってこなかった私自身、大きな責任を感じています。分かっていると思ひ込み、十分な話し合いをしてこなかったことを悔やんでいます。最近話したら「今さら・・・」などと言っていました。地域の人が、バラバラになっていることにも訳があると思いますが、今後、情報を届けていきたいと思います。

話をさせていただいてきた県外の人からは、「私たちも原告になれるのですか」などの問い合わせがあって、関係の方へどうなのか教えてもらいました。原告になるのは県内と隣接県だとわかりました。しかし支援はいただけるとのことで、そのことをお知らせしました。話をさせていただいたところでは、本当に理解して応援してくれることがわかりました。

県外だけで話をする機会が多かったのですが、県内でも、もっと話を聞いていただくよう努めなければならないと思います。今回、参加された皆さんからも、その必要性を聞かせていただきました。詩を書いています、作品としては拙いと思います。しかし今回たくさんの方の励ましに力をいただき、これからも、しっかり見て、聞かせていただいて、書いていきたいと思っています。今後とも、よろしくお願いいたします。

二階堂晃子

◆◆◆◆【会場カンパありがとうございました】◆◆◆◆

第120回ふくしま復興支援フォーラム（12月21日）の会場で、カンパ2,000円をお寄せいただき、ありがとうございました。ご報告とともに、御礼申し上げます。（今野）

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

【会計報告】（2017.12.13現在）

第1期（～2015.9）累計 収入214,746円 支出207,640円 残（繰越）7,106円

第2期（2016.10.27～）

「収入」（2017.12.13での累計）	96,156円	（第1期 繰越 7,106円含む）
会場カンパ(2017.12.21)	2,000円	
計	98,156円	

「支出」2017.11.30まで	累計 75,740円
計	75,740円

「残金（現在高）」 2017.12.13	22,416円
----------------------	---------

▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽▽

<予告> 第122回 「ふくしま復興支援フォーラム」

日時 2018年2月8日(木) 18時30分～20時30分

テーマ 「東日本大震災から7年 被災地の現状と抱える問題
—— 福島大学相双地域支援サテライトの活動を通して ——」

報告者 仲井 康通 氏（福島大学相双地域支援サテライト長）

会場 福島市アクティブシニアセンター「AOZ(アオウゼ)」
大活動室1 MAXふくしま4F(福島市曾根田町1-18)
*入場無料、予約不要